

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272000332		
法人名	有限会社 大三		
事業所名	グループホームよもぎた		
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川字汐干116-1		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者が御家族と共に暮らしているような、家庭的な生活環境を作っています。
・利用者の安心・安全・笑顔の確保のため、御家族・医療機関・地域と共に連携を図り、尊厳のある安全な暮らしを守る支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内には職員と利用者で1年かけて完成させた大きなネブタ絵の他、数々の利用者の作品が飾られており、家庭的な雰囲気である。
また、村民祭等の地域行事に積極的に参加する一方で、バーベキュー等のホーム主催のイベントには地域住民の参加を働きかける等、地域に溶け込んで生活ができるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所前に理念を掲示しており、全職員が理解してケアにつなげている。	「つかず・はなれず・差し伸べる手で・信頼をわかちあう」をモットーに、利用者が地域に溶け込めるような共同生活を維持することを盛り込んだ、ホーム独自の理念を掲げている。ミーティング時に話し合いの機会を持ち、職員は理念に基づいたケアについて理解を深めており、利用者が生きがいを持って自分らしく過ごせるよう、一人ひとりのペースを尊重した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回のバーベキュー、子供ねぶた囃子、地元の小学生の施設訪問、村民祭に積極的に参加し、交流を図っている。	外出時や散歩時には気軽に挨拶を交わしたり、町内会に加入して地域行事に積極的に参加すると共に、ホーム行事の際は地域にPRして、住民の参加を働きかけている。また、バーベキューの際は婦人部による手踊りやハーモニカ演奏がある他、地域の村民祭に毎回出品している「はり絵」が評判を呼んでおり、地域との交流を深めることができるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談や見学を受け入れており、その際には利用者様のプライバシーに配慮の上で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、参加者からも意見等を出していただき、情報交換を密にしてサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、地域における開かれたホーム運営を確保するために、ホームの取り組み報告や情報提供、意見交換を行っている。前回の外部評価結果を報告するだけでなく、その後職員が話し合った改善策や対応策も報告している他、会議での意見等を後日話し合い、サービスの向上のために役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と密に連絡を取り合っており、運営推進会議でも協力を呼びかける等して取り組んでいる。	ホームのパンフレットや広報誌を配布している他、自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出し、ホームの実態等を理解していただけるように努めている。日頃から問題が生じた際はその都度電話や直接出向く等しており、解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束について理解し、日々のケアを工夫して取り組むようにしており、やむをえず行う場合は御家族に説明して同意を得た上で行うようにしている。	全職員は研修等を通じて身体拘束について理解しており、身体拘束を行わない方針で日々のケアに取り組んでいる。職員は、気付かないうちに言葉による精神的拘束に至らぬようお互いに声を掛け合い、発した言動が気になる時には注意合っている。また、外出傾向にある利用者のサインを見逃さないよう、連携しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	独自のマニュアルがあり、全ての職員がいつでも閲覧できるようにしている。日々のケアで見過ごされることがなく、十分に注意し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について概ね理解できている。パンフレット等で御家族等に事業についての情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や御家族とは契約時に十分な話し合いを行っており、不安や疑問点を引き出すように努め、理解・納得を得ている。退去時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置している。職員がいつでも気軽に意見等を話せるようコミュニケーションをとっており、意見や苦情について話し合い、日々の運営やケアに反映させるよう努めている。	日常の何気ない会話や態度、目の動き等から利用者の思い等を察するようにし、うまく表すことのできない利用者には特に注意をして取り組んでいる。また、家族等からの意見や要望はミーティングを通して全職員に周知して迅速に対応しており、いかなる場合においても出された意見等を検討し、より良いホーム運営へと活かせるよう体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を発言しやすい環境づくりに努めており、ミーティングを開いて話し合いをし、運営に反映させるようにしている。	管理者はミーティング時や普段の関わりの中で、職員が気兼ねなく、自由に話ができるような雰囲気づくりに努めており、職員は忌憚のない意見を述べている。また、行事等を通じて利用者との馴染みの関係づくりに努め、異動の際には利用者へ与える影響が最少となるように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全ての職員の勤務に取り組む姿勢や勤務状況を把握するように努め、個々の能力に合った労働環境を整えている。年2回健診を行う等し、労働基準法に則った労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今まで受講していた研修の開催がなくなり、苑外の研修には現在受講する機会はないが、個々の能力を把握し、管理者が必要に応じて随時助言をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週1回の連携会議に参加し、情報交換で交流を深め、得た内容をサービスの質の向上のために参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安なく、安心できるように十分な話し合いを行い、調整するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が安心していただけるように十分に話し合い、御家族の要望に沿うように調整している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や御家族と十分に話し合う中で、御本人が望んでいる事、御家族が望んでいる事をまずは知り、そこから職員間でもよく話し合い、希望に沿えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からコミュニケーションを十分にとり、御家族と暮らしているような生活環境を作り、時には手伝いをさせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が御家族に望んでいる事、また、御家族が利用者様に望んでいる事等をこまめに伝え、御家族との絆を大切に、共に支えていく関係を築くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が馴染みの人等と連絡を取りたい時は、電話等で対応し、関係が途切れないようにしている。	入居時の聞き取りや日々の暮らしの中での関わりを通し、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握しながら、関係が途切れないように支援している。職員は、希望に応じて電話のやりとりや手紙の代読等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに声掛けをし、利用者様同士も会話が弾むように促し、見守っている。毎日のリハビリ体操、塗り絵、歌を歌う等の趣味活動の機会も利用して、コミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「相談等はいつでも気軽にしてください。」と話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話を大事にし、希望や意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で積極的に声掛けし、利用者一人ひとりの視点に立ち、表情や言葉の端々、しぐさ等から思いや意向の把握に努めている。十分に把握できない場合には家族からの再度の聞き取りの他、必要に応じて医療関係者等からも情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話を通して気づくことがある他、御家族から話を聞いて、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズム、ADLの状態等を把握した中で、少しの変化も見逃さずに対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からの要望や職員からの改善すべき点、継続すべき点の意見を出し合った中で、生活の質の向上に向けたケアプランを作成することに努めている。	利用者本位をサービスの基本と考え、職員間で相談しながら、利用者の心身状況や希望、置かれている環境等を踏まえて、個別で具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、実施期間に関わらず、利用者の状態の変化や家族等の希望の変化に応じ、随時見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりがケアプランに基づいたケアを実践していく中で、変化している事柄を職員間で共有・意見交換をし、プランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時の送迎、理・美容等、御家族からの要望に応じて、柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中でメンバーとの連携を図り、幅広い支援をしていただけるよう求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、ホーム内での往診の他、医療機関やかかりつけ医との24時間体制での相談や対応ができるように支援している。	これまでの受療状況を把握しており、かかりつけ医や協力医療機関、専門医等、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。月1回の訪問診療と緊急時の診療体制等により、利用者が適切な医療を受け、安心して生活ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化、容態急変時、その他の情報交換等、連携医療機関の看護師へ随時相談をしたり、支援を受けられる仕組みを構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際の情報交換、その後の経過、退院後の支援に対する指導が受けられる体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関や御家族との話し合いの中で、ホームでできる対応については早い段階で話し合い、準備し、体制を整えて対応している。	「重度化した場合における対応に係る指針および看取りに関する指針」を作成し、ホームとしての方針を明確にしている。また、早い段階から家族や医療機関との話し合いを行い、連携を図りながら、ホームとしてできる限りの支援に取り組む体制を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で学んだ知識を職員間で情報交換し、技術の共有化を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は昼夜を問わず、他の棟の職員とも連絡を取り合い、協力するように心掛けている。また、職員全員が避難経路等も把握している。	年2回の訓練を行っており、いざという時に混乱することなく、迅速な対応ができるように取り組んでいる。防災設備関係は専門業者により定期的な点検を行っている他、運営推進会議のメンバーを通じて災害時の協力を働きかけている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の性格、生活習慣等に考慮し、個々に合った言葉掛けをしている。	職員は利用者に対し、人生の大先輩としての敬意を持ち、言葉遣いをはじめとした対応には十分な配慮の上、利用者とのコミュニケーションを深めている。また、研修を通じて守秘義務や個人情報の取り扱いも理解しており、個人情報に関わるものは適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が訴えている時には話を傾聴し、訴えられない方には表情を読み取って理解しており、自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の要望を聞き入れるようにしている。無理に勧めることがないように、個々のペースに合わせるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服は御本人に選択してもらい、着ていただいている。また、季節に合った衣類を着ていただくように促している。月に一度床屋が来苑し、希望者は散髪をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら食事ができるよう、明るい雰囲気づくりを心掛けている。準備や片付けの作業は無理に勧めず、御本人の意思に任せて、下膳等を行ってもらっている。	利用者の好みや苦手なもの、医療面からの制約等を考慮した献立及び食材調達を専門業者に委託しており、カロリー計算されたものが提供されている。時には家族や知人からの差し入れの野菜や果物等が食卓に並ぶこともある。また、利用者は食後の後片付けや食器拭き等、本人ができる範囲で職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の摂取量を把握して、盛り付け等を工夫している。食事量、水分量は記録して、職員間で調整や把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている他、夕食後に義歯洗浄剤にて清潔を心掛けている。自力で口腔ケアができない利用者様には、毎食後にガーゼ等で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えができない利用者様には、排泄パターンや排泄前の行動を把握し、事前にトイレ誘導を行っている。訴え時には優先し、トイレ誘導をしている。	排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援をしている。時間を決めて事前誘導し、夜間時には居室にてポータブルトイレを使用する等、なるべくおむつに頼らない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給、適度な運動にて自然排便を促している。排便状況を把握しており、自然排便が困難な方にはかかりつけ医より下剤を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めているが、体調や御本人の意思に配慮し、曜日の変更ができるようになっている。	基本的に週2回の入浴日を設けているものの、状況や申し出等により、曜日を変更して入浴できるようにしている。各自の入浴習慣や好みを把握し、入浴による羞恥心や負担感にも配慮の上で、支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昔からの好みや習慣、季節や天候を考慮して、衣類・寝具・空調等で快適な温度となるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者様の服薬内容を把握している。薬担当を決め、誤服用のないよう細心の注意を払っている。また、薬の変更時や新しく処方された際は2週間の観察を行い、担当医に経過報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴は個人ファイルにより把握し、日々の生活の中で少しでも思いや役割を活かせるよう、声を掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で、利用者様の行きたい場所があれば計画を立て、実現できるように上司に依頼している。普段行けないような場所であれば、御家族に面会に来ていただくように依頼し、御家族と相談できる場を設けるようにしている。	利用者の希望を取り入れた外出支援を心掛け、天気の良い日には周辺の散歩をしたり、近隣の商店に買い物に行く等により気分転換を図っている。また、年末年始やお盆には自宅に帰る等、家族からの協力を得ながら支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人や御家族からの依頼により、職員が金銭管理をしている。その際は小遣い帳に記載し、領収書を保持して、月毎に御家族に渡しており、小遣い帳にて確認していただいている。金銭管理ができる利用者様には小遣い程度を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時は、電話の取り次ぎ、手紙、はがきの代筆等の支援をし、大切な方とのつながりが途切れないように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を心掛けている。利用者が趣味活動等で手作りの作品を飾り、季節感を出して、明るく、あたたかい雰囲気の間を提供している。	ホールは南向きで温かな日射しがあり、適度な明るさである。全体的に利用者の作品が多く飾られ、家庭的な雰囲気となっており、ソファ等を配置して利用者がゆったりと過ごすことができる。また、温・湿度計の設置や加湿器等により、適切な空間となるよう管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫している。気の合った利用者様同士が話したり、ゲームができる場の提供をしている他、窓から外が眺められるようなソファの配置等、ゆっくりと寛げるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者様が昔から使用していた馴染みの物を取り入れており、床に座りたい方には絨毯やゴザ等に対応し、御本人の好む部屋づくりを工夫している。	写真や小物、カレンダー、テレビ等を持ち込んで、自分好みの居室づくりを行っている。また、床に座って過ごす時間の多い人のために、絨毯やゴザを敷く等、居心地の良い居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの場所に設置されている手すり等は、安全を考慮した上で活用できている。慣れない設備等はその都度説明している。		